

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba

第15号 2020年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



写真左上から：バレーボールで競り合う参加者／学生企画のバブルサッカー／玉入れを楽しむ参加者
アダプテッドスポーツの車いすバスケット／正式種目のサッカー／開会式での斬桐舞のステージ

第43回秋季スポーツ・デーを終えて

こんにちは。第43代スポーツ・デー学生委員会委員長の高山です。11月16日、17日に第43回筑波大学秋季スポーツ・デーが開催されました。両日ともに天候に恵まれ、無事に成功させることが出来ました。今は半年の間取り組んできたことが報われた晴れやかな気持ちでいっぱいです。

今回のスポーツ・デーには正式種目、学生委員会企画、サークル企画で合計延べ5000人ほどの方に参加していただきました。私の任期はこれで終了となりますが、後輩たちには今までやって

—内容—

キャンパスニュース、課外活動団体構成員数一覧 学生相談室から、桐の葉日記、筑波大学の風景	1頁
留学情報、学生の一週間、大学院進学報告、 卒業式・入学式のご案内、大学広報物のリンク集	2頁 おしらせ
全代会、文サ連、芸サ連、体育会活動紹介 1年間を振り返って	3、4頁
特集(学生組織のこれまで、これから)	4頁

きたことのいい点は継続しつつ、時代に合わせて形を変えながら、さらにスポーツ・デーを発展させていってほしいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

(寄稿/第43代スポーツ・デー学生委員会委員長
高山重哉・数学3年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

春季休業	2月15日～4月4日
同(東京キャンパス・夜間)	2月16日～4月3日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月28日
入学式	4月5日
同(東京キャンパス・夜間)	4月4日
新入生歓迎祭本祭	4月5日
新入生オリエンテーション(学群)	4月5日～7日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月5、6日
同(東京キャンパス・夜間)	4月4日
授業開始(学群)	4月8日
授業開始(大学院)	4月7日
同(東京キャンパス・夜間)	4月7日
春季スポーツ・デー	5月16、17日

キャンパスニュース



写真左上から：リーダー研修会の集合写真／文サ連系別会の様子
三系レクリエーションの様子／体育会系別会の様子／朝日のなか研修施設の前でラジオ体操

リーダー研修会

リーダー研修会は、文化系サークル連合会、体育会、芸術系サークル連合会の三系合同で行う研修会です。所属団体の新責任者や新役員となる方々が団体運営の意義やあり方を学んだり、普段は関わりのない団体との系を超えた交流をしたりすることで、リーダーとしての自覚を持つとともに、今後のモチベーションを高めてもらおうと毎年開催されています。今年度は11月30日から12月1日にかけて群馬県の研修施設で行い、総勢200名を超える学生と教職員が参加しました。具体的な内容としては、グループワークを含めたワークショップでリーダーに役立つコミュニケーションの取り方を学ぶ講演会や、所属する系ごとに模擬会議や交流会を行う系別会、系を超えた交流を図る三系レクや懇親会を行いました。

今後改善していくべき点は様々ありながらも、「役に立った」「楽しかった」など、前向きな声も数多く聞かれ、リーダー研修会に真剣に取り組んでくださった参加者の方々には感謝の念が尽きません。1年間運営に携われたことを光栄に思っております。

この度のリーダー研修会の開催に際しまして、筑波大学紫峰会基金より40万円の援助金を頂きました。宿泊費や食事代など、学生の参加費負担の軽減に使わせていただき、学生の参加に対するハードルを下げる事が出来ました。ご支援ありがとうございました。

(寄稿/2019年度課外活動団体リーダー研修会実行委員会
実行委員長 有林沙央・知識2年)

箱根駅伝

第96回東京箱根間往復大学駅伝競走は2020年1月2～3日に開催され、26年振りに出場した筑波大学は、総合11時間16分13秒(往路:5時間37分53秒 / 復路:5時間38分20秒)の20位でした。

1区の西研人(体育専門学群3年)が11位と健闘して良いスタートを切りましたが、高速レースに対応できず徐々に順位を落としてしまいました。しかし、本学の学生たちは、精一杯走り、笑顔で襷を繋いでくれました。厳しい戦いの中でも、桐の葉を胸に、伝統の黄色い襷を肩にかけ、唯一の国立大として夢の舞台で走ることができたことは、学生たちにとってはかけがえのない経験となり、卒業生にとっても母校を応援できる幸せな時間だったと思います。

これらひとえに、多くの皆様からのご支援と応援のおかげと心より感謝申し上げます。レース中、沿道から途切れることのない「筑波大、頑張れ!」の声に、学生たちは大いに励まされたことと興奮気味に話していました。ありがとうございました。

箱根駅伝の高速化が一気に進んでいる中、連続出場することは今後も茨の道であることになりました。引き続き、ご支援と応援を賜りますようお願い申し上げます。

(寄稿/陸上競技部
男子駅伝監督 弘山勉)



1区・西選手から2区・金丸選手へ襷リレー (写真:アフロスポーツ)

2019年体育会納会を終えて

2019年12月4日に納会を行い、無事に体育会も1年の活動を締めくくることができました。このような式典を成功させられたのも、ひとえに体育会の活動に賛同していただいている先生方や、構成員の皆様のおかげだと思っております。ありがとうございました。昨年に引き続き、今年もつくば国際会議場で行いましたが、寒いなか、学長をはじめ、たくさんの方々にお越しいただき、執行委員一同大変うれしく思っております。

体育会納会は二部構成で行いました。一部は体育会賞の表彰、第44代執行委員の紹介やWINSのパフォーマンス等、厳かな雰囲気の中行われた一方、二部は立食パーティー形式で歓談する和やかな雰囲気のとおりとなりました。今後さらによりよい会をつくるために努力して参りますので、どうかよろしくお願致します。

(寄稿/第44代体育会執行委員会委員長 高橋七萌・体専2年)



第44代体育会執行委員会紹介

文化系サークル連合会	
団体名	構成員数(人)
Amusement Creators	26
E.S.S.	9
池坊華道部	12
囲碁部	13
宇宙工学研究会	8
映画研究部	18
SF研究会アルビレオ	11
園芸クラブ	5
CLOVER ~難民と共に歩むユース団体~	10
写真部さくら組	14
歌留多部	58
斬桐舞	57
現代視覚文化研究会	74
茶道同好会	18
茶道部和敬清寂社	17
社会福祉研究会	190
手話サークル	29
将棋部	37
図画団	48
ストーリーテリング研究会	9
T.A.S.C.	31
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	35
つくば人間の会	46
筑波文学の会	16
天文研究会	55
電気通信研究会(旧アマチュア無線クラブ)	7
TOJO K-ON	95
ねっしー・自然教育研究会	61

文芸部	31
マジシャンズクラブ	13
漫画研究会	15
野外活動クラブ	32
野生動物研究会	59
歴史探訪会	11
海洋研究会	35

芸術系サークル連合会	
団体名	構成員数(人)
アカペラサークルDoo-Wop	156
E.L.L.(筑波軽音楽協会)	117
応援部WINS	77
合唱団むくどり	18
管弦楽団	109
ギター・マンドリン部	19
劇団筑波小劇場	30
混声合唱団	52
ジャグリングサークルSheep	17
写真部	34
JAZZ愛好会	44
書道部	33
吹奏楽団	59
男声合唱団メンネルコール	10
津軽三味線倶楽部無絃塾	39
筑波音楽協会	50
筑波能・狂言研究会	8
つくばフォーク村	48
THK筑波放送協会	17
ときめき太鼓塾	15

人形劇団NEU	6
筑波大学ジャズ楽団 Neopolis BIGBAND	49
ピアノ愛好会	94
ViCC-映画をつくる会-	18
folkローレ愛好会	10
舞踏研究会	16
ブロックフレイテ同好会	15
邦楽部	33
ミュージカル集団ESSASSA	69
落語研究会	16

体育会	
団体名	構成員数(人)
部会	
アーチェリー部	16
合気道部	20
アイススケート部	2
男子アイスホッケー部	34
女子アイスホッケー部	32
アメリカンフットボール部	40
オリエンテーリング部	47
鹿島神流武道部	33
空手道部	11
弓道部	19
剣道部	84
硬式野球部	116
硬式庭球部	38
サイクリング部	55
蹴球部	132
女子サッカー部	23

柔道部	39
準硬式野球部	21
少林寺拳法部	8
水泳部	53
スキー部	12
漕艇部	10
男子ソフトボール部	39
女子ソフトボール部	16
体操部	18
体操競技部	28
卓球部	29
ダンス部	20
トライアスロン部	35
軟式庭球部	21
馬術部	14
男子バスケットボール部	40
女子バスケットボール部	25
バドミントン部	31
男子バレーボール部	16
女子バレーボール部	18
男子ハンドボール部	28
女子ハンドボール部	20
フィールドホッケー部	10
ヨット部	3
ライフセービング部	5
ラグビー部	72
男子ラクロス部	46
女子ラクロス部	23
陸上競技部	242

同好会	
アルティメット同好会 INVER HOUSE	63
剣道同好会	26
サッカー同好会	50
バスケットボール同好会	29
バドミントン同好会	138
バレーボール同好会	34
フェアリースキークラブ	19
ワンダーフォーゲルクラブ	42
トランポリン同好会	26

医学	
医学アイスホッケー部	33
医学水泳部	105
医学硬式庭球部	73
医学バスケットボール部	30
医学バレーボール部	36
医学ゴルフ部	72
医学スキー部	35
医学バドミントン部	113
医学ヨット部	12
医学弓道部	66
医学サッカー部	47
医学ソフトテニス部	34
医学ラグビー部	51
医学剣道部	20
医学準硬式野球部	51
医学卓球部	37
医学ハンドボール部	70
医学陸上競技部	83

学生相談室から 総合相談窓口 029-853-8430
学生相談受付 029-853-2415

「逆境からの回復を支えるもの」

人間系 田附あえか

最近、幼少期を逆境的環境で過ごした子どもがどのように成長していくか、ということに関する様々な知見が登場しています。逆境的環境とは、貧困家庭や、事件事故、テロや災害等、また児童虐待や養育放棄(ネグレクト)等の不適切な養育環境等をさしますが、このような過酷な体験をした子どもは心身に負の影響を大きく受け、それは成人になっても続くと考えられていました。しかし、近年の調査では、辛い経験を重ねたにもかかわらず、社会に適応した幸せな人生を送る人もいることが報告されています。

もっともよく知られた研究^{1,2}は、ハワイのカウアイ島で約700人を対象に行われた30年以上の追跡調査です。結果は、2歳の段階で「ハイリスク」と判断された子どものうち、3分の2は成長過程で不適応状態を呈しましたが、3分の1の子どもの健康な発達をとげ、人を愛し、よく働いてよく遊ぶ、健康な青年に成長したと報告されています。

ではこのように逆境を体験しても回復する力を支える要因はなん

でしょうか。専門的治療でしょうか、服薬でしょうか。いいえ、種々の研究が一致して指摘しているのは、「親身になってくれる身内や地域の大人とのつながり」³です。決して特別なサポートを受けたのではなく、「当たり前」の愛情を与え、信頼関係をつくり、子どもの能力をのばそうとする周囲の人々がいただけ⁴、そのことが子どもの回復を支えたとされています。

皆さんの周りにも様々な辛い経験をした子どもたちがいるかもしれません。そんな子どもたちのよりよい人生を支えるのは、家族や地域の大人、学校の教職員をはじめとする育ちのネットワークをはぐくむことであり、社会に生きる大人ひとりひとりのあたたかな声かけや関わり、まなざしなのです。

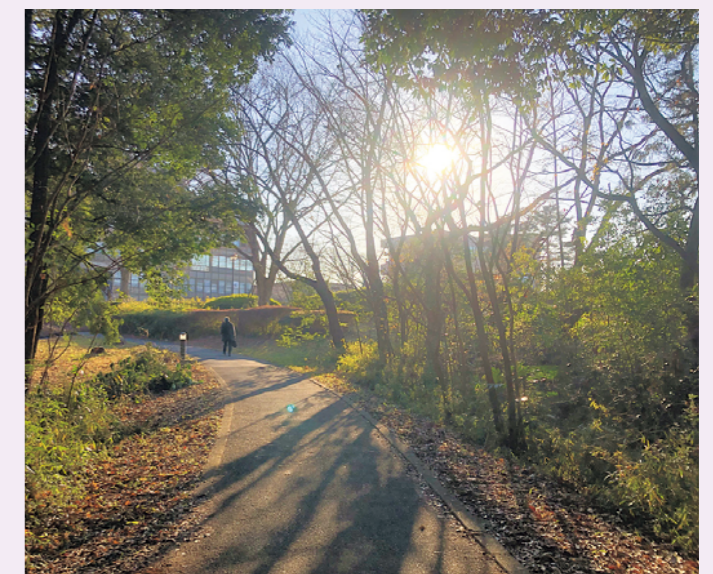
1 Werner, E. E. 1989. High-risk children in young adulthood: A longitudinal study from birth to 32 years. American Journal of Orthopsychiatry, 59(1), 72-81.
2 Werner, E. E. 1993. Risk, Resilience, and Recovery: Perspectives from the Kauai Longitudinal Study. Development and Psychopathology, 5, 503-515.
3 Masten, A. S. 2001. Ordinary magic: Resilience processes in development. American Psychologist, 56(3), 227-238.
4 松嶋秀明 2016 初のレジリエンス研究:ワーナーとスミス, 家族療法研究33(1), 4-8.

桐の葉日記

私は1月1日に初詣をしました。日本に留学して三年目、初めての初詣です。1月1日0時くらい、友達5人と車で一の矢八坂神社に向かいました。着いた時、もう既にたくさんの方が並んでいました。明るく光ってる御神灯が神社に並び道を照らし、人々が二人一列でゆっくり進んでいて、「これが日本の初詣だ!」と思って、テンションが上がりました。神輿を担いでいる人、おみくじを引く人と御守りを買う人がいて、賑わっていました。冬の深夜はさすがに寒かったのですが、友達と一緒に初詣をして、新しい一年を迎えることができました。その後、おもちを作って食べました。初めて自分で作ったので、多少失敗しましたが、やはりおもちは美味しかったのです。今年の新年は日本のお正月文化を体験して、良い一年を過ごす願いを人と共有したので、新しい一年に向けて頑張れる気がします。

(文責/文化系サークル連合広報局長 洪 浩麟・芸専2年)

大学の風景



体芸エリアに向う坂道

留学情報

グローバル・commons機構
学生部 学生交流課

～Go Abroad!～

本学は、開学以来、「開かれた大学」という理念のもとに、国際交流を積極的に促進してきました。また、本学のミッションとして、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とそれを牽引するグローバル人材の育成」を掲げています。その結果、現在では多くの大学や教育研究機関と学生交流協定を結んでおり、4,000人以上の留学生を受け入れ、2,600人ほどの学生を海外へ派遣しています。

グローバル社会が大学に求めている国際化は日々複雑化し、あらゆる分野で世界に貢献できる人材が必要とされています。これに対応するため、本学は多様な教育・研究の国際交流プログラム等を整備してきました。教育面では、交流協定に基づいた学生交流に加え、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー、各種修了証授与を組み込んだ共同研究プログラム、インターンシップやフィールドワークを含めたプログラムを積極的に推進しています。

以下、本学の留学制度について、簡単にご紹介します。

◆交換留学

本学と学生交流協定を結んでいる海外の大学(以下「協定校」)に、所属教育組織の長の許可を得て留学することを「交換留学」と呼んでいます。

交換留学の場合、留学期間は本学の修業年限および在学年限に編入され、留学先で取得した単位は、教員会議等の議を経て、一定条件のもとで本学の卒業要件単位として認められます。さらに、授業料相互不徴収の取り決めがある協定校では、留学先大学での授業料は不徴収となります。留学期間は1年以内(最大2年間)です。

海外留学のための経済支援一覧

筑波大学では学内外からの各種経済支援により、学生の海外留学・海外派遣を後押ししています。

●筑波大学海外留学支援事業 はばだけ!筑大生

①国際交流協定校交換留学支援プログラム

本学と海外の大学等との間で締結された学生交流協定に基づき、海外の大学等に留学する者を対象に、滞在費の一部を支援します。(月額上限80,000円)

②キャンパスインキャンパス(CiC)等支援プログラム

CiCパートナー大学又はダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム等(DDP等)を実施する大学との間で締結された協定書に基づき、海外の大学で学修、調査・研究を行う者を対象に、旅費・滞在費の一部を支援します。(月額上限80,000円、ただしCiC短期は1人あたり上限150,000円)

③海外武者修行支援プログラム

優れた企画と発表能力を持って海外に出向き、現地での活動を行う者により任意結成された学生グループ(数人～7人程度)を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限200,000円)

④海外学会等参加支援プログラム

海外で開催される国際学会、シンポジウム、研究会等へ出席して、研究発表を行う者を対象に、旅費の一部を支援します。(上限150,000円)

⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム

本学主催、学内組織主催又は共催して海外で開催する語学学習を伴う研修や、専門科目に関する学修、調査・研究などの海外研修プログラムに参加する者を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限100,000円)

●筑波大学基金開学40+101周年記念募金海外留学支援事業

協定校に短期間(1年以内)留学する学生に対して奨学金による支援を行います。(月額100,000円および渡航費の一部)

●日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(協定派遣)

教育組織等が実施するプログラムにより、8日以上1年以内の期間で海外の協定校に派遣される学生に対して、JASSOが奨学金を支給する制度です。(月額60,000～100,000円)

◆Campus-in-Campus (CiC)

Campus-in-Campus (CiC)とは、CiC協定を締結した海外の大学と筑波大学との間で、学生、教員、研究者、職員が大学の壁を越えて活動するために、相互に、研究教育環境をキャンパス内に取り込み、利活用することを目指します。2020年1月現在で8か国・地域の大学と10協定を結んでいます。

CiC協定において「科目ジュークボックス」に登録されている科目は本学の開設科目として履修でき、取得した単位は卒業要件単位として認められます。また、留学先大学の授業料は不徴収となります。

◆短期海外研修

本学の教育組織等が実施する海外研修プログラムに参加するもので、内容は語学研修、専門的な講義の受講、海外での実地研修等プログラムによって様々です。プログラムによっては本学の開設科目として実施され、単位が付与される場合があります。また、参加費・受講料が必要となる場合があります。留学期間は1週間～1か月程度が多くなっています。夏季・春季休業中に実施されるプログラムもあります。

本学が目指すグローバル人材は、「確固たるアイデンティティと十分な専門性を持ちながら、多様性を生かす柔軟性を発揮し、あらゆる国、組織や分野の壁を越え、協力関係を構築し、グローバルな活動を牽引できる人材」です。本学の学生には、ぜひ在学中に本学が提供する国際交流プログラムにチャレンジして、グローバル社会に貢献できる能力を身に付けていただきたいと思います。

学生の一週間

ここでは、学生2名の一週間のスケジュールを例に、筑波大生が実際にどのような生活を送っているかを紹介します。今回は秋学期Bモジュール(11月)です。

2年生 Oさん

芸術専門学群に所属する2年生のOさんは、体育会の部に所属し、火・木・土週3回の通常練習に加え朝練に参加することもあり、授業と部活の合間にアルバイト、そして自身の作品・課題制作の時間をつくり、充実した生活を送っています。

	月	火	水	木	金	土	日
5		睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
6	睡眠				睡眠	睡眠	睡眠
7		朝練 or 睡眠	朝練 or 睡眠	朝練 or 睡眠			
8	朝食・支度	朝食・支度	朝食・支度	朝食・支度	朝食・支度	朝食・支度	朝食・支度
9						勉強や制作	
10	授業	授業		授業	授業		
11	昼食	昼食	バイト	昼食	昼食	昼食	バイト
12							
13							
14	授業	授業		授業	授業	部活	
15			制作等				制作等
16							
17							
18	制作等		帰宅	部活	帰宅		帰宅
19		部活	夕食	夕食	夕食		夕食
20	夕食			帰宅		部活仲間との交流	
21		夕食		夕食			
22	趣味や勉強	趣味や勉強	趣味や勉強	趣味や勉強	趣味や勉強		趣味や勉強
23							
24							
1	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2							
3							

2年生 Mさん

医学類に所属する2年生Mさんは、毎日の授業に加え、実習や部活など充実した生活を送っています。休日も部活や試合があることが多い一方で、趣味であるゲーム・テレビ鑑賞にも時間を割くようにしています。

	月	火	水	木	金	土	日
6	睡眠	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	睡眠	起床・朝食
7	起床・朝食					起床・朝食	
8		家事・趣味	家事	家事・趣味	家事・趣味		家事・趣味
9	家事・趣味					家事・趣味	
10		授業	授業	授業	授業		
11	昼食						
12		昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	
13	実習					家事	
14		授業					試合
15	授業	家事・趣味・昼寝	授業	授業	授業	部活動	
16							
17			家事		家事	風呂	
18						家事	風呂
19	体育会 執行委員会	部活動	夕食	部活動	夕食	夕食	ミーティング
20			風呂		風呂		
21			趣味		趣味	趣味	夕食
22	夕食	夕食		夕食			趣味
23	風呂・読書	風呂	読書	風呂	読書	読書	
24							
1							
2	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
3							

大学院進学報告



心理学類 4年
安藤隆介

本稿では大学院進学を決めた理由と研究から学んだことについてお話しします。皆様が進路を考えるうえでの参考となりましたら幸いです。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム (令和2年度より新組織に移行します)

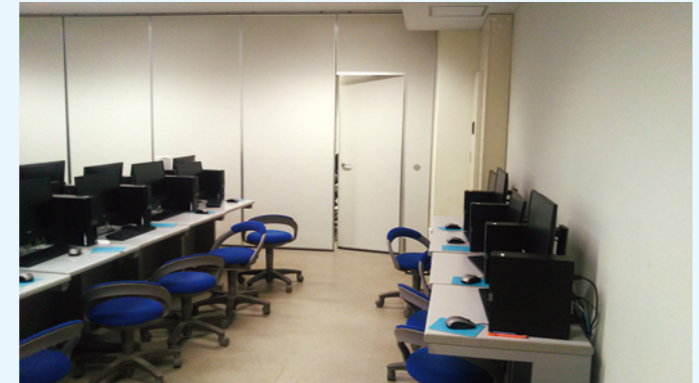
人間総合科学学術院／人間総合科学研究群／心理学学位プログラム

■大学院進学理由

私が大学院に進学することを決めた理由は、私が将来やりたいことに専門家として取り組めるようになるためです。私は将来的に「子育てしやすい地域」を作る仕事をしたいと考えていますが、こうした仕事を行うには社会で様々な方に話を聞いていただき、協力を得る必要があります。そのためには、話を聞いていただけるだけの「立場」が私になければいけません。このことから、「子育てと地域」の問題に心理学的観点から取り組む専門家になろうと決めました。大学院では心理学の専門知識と臨床援助の技術を学び、「子育てと地域」の専門家となるための基礎を築きたいと考えています。

■研究室で学んだこと／研究を通して学んだこと

私が研究から学んだことは、失敗は当然起こることです。仮説の真偽などの「研究の結果」だけにいえるのではなく、「研究作業」を行う中でも失敗は起こります。私は研究作業の中で度々失敗し、その度に落ち込んでいました。しかし大学院の先輩などに話を聞くと、意外と先輩方も私がしたような失敗は経験済みだったりします。私はそれを聞いてようやく、やはり失敗はするものなのだと思ひ、失敗を引きずって落ち込むことが少なくなりました。皆様が研究で何か失敗したときも、失敗は自分だけがするわけじゃないと割り切ることをお勧めします。反省もお忘れなく。



普段作業をしていたサテライト室



教育学類 4年
安里ゆかし

本稿では私が大学院に進学した理由とともに、今後研究したいことについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム (令和2年度より新組織に移行します)

人間総合科学学術院／人間総合科学研究群／教育学学位プログラム

■大学院進学理由

私は、全国でも貧困率の高い沖縄県で生まれ育ち、福祉や教育の進んだ国として有名なフィンランドに留学した経験から、多様な人々がそれぞれ価値を置く生を実現できる社会や教育の在り方に関心を持つようになりました。しかし、近年のグローバル化や新自由主義の台頭によって、先進諸国における貧困が深刻になり、生きたいように生きることはますます難しくなっています。そのような状況に対して、教育や就労支援等による自立を促す政治的動向がある一方で、貧困研究の領域からは、所得の再分配など経済的支援が最優先であるとの主張があります。反貧困政策において、経済的支援が重要なものというまでもありませんが、そのような財は、あくまで生きたい生を実現するための手段にすぎません。教育は、子どもたちがどう生きたいかの選択肢を広げる上で重要な役割を担っていると言えますが、その役割を担うに足る教育の在り方である必要があります。私は、子どもや若者の社会的・職業的自立の基盤となる能

力の育成を目指すキャリア教育に、生き方の自由が平等であることを重視するケイパビリティ・アプローチの視点を取り入れることによって、その在り方のひとつを提示したいと考えています。

大学で教育の勉強をしていると言うと、将来は学校の先生になると思われがちですが、その実践には、教育の思想、法、制度、研究成果等が大きく関わっています。とりわけ、「教育学の総本山」として、日本の教育学研究を明治以来牽引してきた歴史がある本学で、教育学研究に打ち込めることを誇りに思っています。



国際キャリア教育学会にて

令和元年度 筑波大学卒業式のご案内

■日時 令和2年3月25日(水)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】
対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設
入場 8:50~9:10
開式 9:30 閉式 10:15(予定)

【第二回】
対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群
入場 10:50~11:10
開式 11:30 閉式 12:10(予定)

令和元年度 筑波大学大学院学位記授与式のご案内

■日時 令和2年3月25日(水)
■会場 筑波大学 大会館講堂
入場 13:10~13:40
開式 14:00 閉式 14:55(予定)

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

令和2年度 筑波大学入学式のご案内

■日時 令和2年4月5日(日)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】
対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設
入場 8:40~9:10
開式 9:30 閉式 10:00(予定)

【第二回】
対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群
入場 10:40~11:10
開式 11:30 閉式 12:00(予定)

令和2年度 筑波大学大学院入学式のご案内

■日時 令和2年4月5日(日)
■会場 筑波大学 大会館講堂
入場 13:10~13:40
開式 14:00 閉式 14:25(予定)

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

ご家族の方は、講堂収容定員の関係により大会館内の別会場でのスクリーン視聴となりますことをご承願います。また、式典は、当日インターネット中継を行います。中継URLは式典前日に本学ホームページにてお知らせいたします。なお、駐車場は非常に数が限られておりますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

詳細は、本学ホームページをご確認ください。 <http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/ceremony/>
問合せ先:筑波大学総務部総務課 029-853-2025 (平日 9:00-17:00)



大学広報物のリンク集

紫峰の風

編集:学生部学生生活課、学生広報会議・広報部会
発行:事業開発推進室
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihoukai/backnumber/>



TSUKU COMM[ツクコム]

編集・発行:筑波大学広報室
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/communications/index.html>



筑波大学新聞

編集:筑波大学新聞編集部
発行:筑波大学
<http://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/shinbunindex.html>



筑波スポーツ

編集:筑波スポーツ編集部
発行:筑波大学体育会
https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taiikukai/tsukuba_sports



宿泊施設・館内食堂のご案内

筑波研修センター 紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

- ・1泊3800円より(食事別)
- ・シングル145室
- ・ツイン5室
- ・和室5室

筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時に申し出下さい。

館内食堂
朝食550円
夕食750円~900円
(定休日がありますので、ご利用の際はあらかじめご確認ください)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5 E-mail center@meikei.or.jp
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886 URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

紫峰の風 第15号 2020年2月発行
発行 事業開発推進室
編集 学生部学生生活課
学生広報会議(飯村玲菜・教育1年、石倉鈴太郎・医療1年、伊藤香菜子・生物1年、沓澤紗奈・生物2年、高見沢仙美・応理2年、竹森大貴・人文1年、瀬邊風馬・日日2年、軽辺凌太・地球2年)
広報部会(稲葉彩月・教育3年、河原井かれん・芸専2年、黒川真臣・生命環境4年、山岸素子・知識3年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸術2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
電話:029-853-5886 E-mail:gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/>

筑波大学紫峰会基金に寄附して下さった皆さまへ

皆さまからいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金等として、使用させていただいております。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をさらに充実することができました、大変感謝しております。

今後も我々の活動を見守ってください。

課外活動団体一同

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ~全代会をもっと知りたい~

学内行事委員会



第一回学生組織連絡会の様子

<委員会紹介>

学内行事委員会は、主に他の学生組織に対する全代会の窓口として連絡を行う委員会です。全代会と他の組織をつなぐだけでなく、学生組織と大学の間を取り持ち、各学生組織間で連絡を取り合う場を設けたりしています。現在は約10名で活動しています。

<活動紹介>

毎週木曜日にミーティングを開き、委員会全体で情報共有や審議を行っています。具体的には以下の業務を行っています。

・学園祭

学園祭実行委員会と連絡を取り合い、その活動を監督します。また、提出された学園祭実行計画書などの書類を確認し、全代会や大学での審議が円滑に進められるように適宜校正などを行います。

- ・スポーツ・デー
スポーツ・デー運営委員会に出席し、スポーツ・デーの開催に関する内容について審議します。
- ・学生財務会議
学生財務会議に出席し、課外活動団体の援助金申請に関する審議をします。また、全代会を通して申請が行われる学類新歓援助金等の手続きを行います。
- ・課外活動団体会議
課外活動団体会議(通称「三系会議」)に意見参考人として出席し、文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会と情報共有を行います。
- ・学生組織連絡会
学生組織同士で直接情報共有や意見交換を行う場として、学生組織連絡会を年に2回開催しています。例年、全代会をはじめとして、文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会、学園祭実行委員会、スポーツ・デー学生委員会、宿舎祭実行委員会、新入生歓迎祭推進委員会などの学生組織が参加しています。
- ・文書の校正
全代会内の各部署の依頼を受けて、作成された文書の校正作業を行います。
(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議学内行事委員長 竹内織洋・地球2年)

調査委員会



ペDESTリアンデッキの溝の調査の様子

<委員会紹介>

調査委員会の業務は、全代会が対応すべき学内の問題を発見し、詳細を調査して担当にふさわしい他の委員会に調査報告をすることです。諸問題に対して全代会が行動を起こすときの起点になる委員会であるといえます。現在は約8人で活動しています。

<活動紹介>

毎週月曜日にミーティングを開催し、調査の内容、分担の決定や報告書の作成を行っています。調査は大まかに、調査内容の決定→調査の実施→報告書の作成・提出という流れで行っています。調査する案件は、全学生を対象に身の回りの問題点を広く募集するアンケートフォームや他の委員会からの依頼により集めます。扱う案件

が決まったら調査を行い、報告書を作成してその問題を管轄する委員会に報告します。調査方法には学生を対象にしたアンケートや実際に現場に赴き状況を目視で確認することなどを用います。提出した報告書は、大学に提出する要望の作成に役立てられます。当委員会は生活環境委員会、教育環境委員会から依頼を受け調査を行うことが多く、これらの委員会と密接に協力しながら業務を進めています。

<今年度調査した問題の一部>

- ・KdBに関する調査
- ・1年生を対象としたカリキュラム変更に関する調査
- ・2年生以上を対象としたカリキュラム変更に関する調査
- ・学内の集中冷暖房の教室の調査
- ・学内の冷房の効が悪い教室の調査
- ・学内の水はけが悪い場所の調査
- ・授業の公欠に関する調査
- ・第3エリア粉とクリーム前ペDESTリアンデッキ上の段差の調査
- ・ペDESTリアンデッキと2A棟を結ぶ道の水はけの調査
- ・支援室ごとの教室を借りる手続きの違いに関する調査
(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議調査委員長 三浦貴也・化学2年)

1年間を振り返って

全学学類・専門学群代表者会議

令和元年度 議長

瀬邊風馬

(人文・文化学群日本語・日本文学学類2年)

全代会の2019年は、つねに「いかに全代会を機能させるか」の闘いであったと感じます。

2019年が始まったころには、全代会の会議は空席が多く、採決を行うための過半数の出席を集めることが大きな課題でした。全代会は人員不足により、本来行うべき活動を全うできていなかったのです。

2019年5月、新年度となり、新たな顔ぶれのもと、令和元年度全代会が発足しました。昨年度の反省を踏まえ、会議時間の短縮などにより全代会構成員の負担を軽減し、できる限り会議に集まってもらえるような環境を整えました。新歓で全代会の説明を熱心に行った効果もあり、昨年度と違って変わって、議場は多くの出席者で溢れました。

しかし、11月の学園祭が終わって以降、またしても出席者が減少し始め、年末には出席者が過半数を割り込み、採決が行えない「流会」が発生しました。解決したかに見えた人員問題は、いまだ根深く影を潜めていたのだと痛感させられる事態でした。

いままでもなく、組織を機能させるには人手が必要です。昨年度の全代会では深刻な人手不足により、全代会の機能不全寸前まで陥りました。今年度も、少しずつ人手不足が顕在化し、何とか全代会を機能させられるよう、今いる人を離さない努力を行わねばなりません。

とはいえ、今年度の活動は非常に盛りだくさんの活動でも言えます。各委員会が積極的に活動し、例えば教育環境委員会では、2020年の東京オリンピックに向けて、学生が直面している課題について広く議論を集め、調査委員会は教育環境委員会や生活環境委員会と協力して、学生の方々の声を聴くアンケートを充実させました。ひとつひとつの動きは決して派手なものではありませんが、着実に学生の皆さんの暮らしを良くしていく活動が行えていることは、昨年度からの大きな進歩と言えます。

今後も、人手不足に対処しつつ、確かな価値を学生の皆さんに届けられるような全代会にすべく、努力を惜しみません。



文化系サークル連合会

第44期運営委員長

吉田夏美(理工学群物理学類2年)

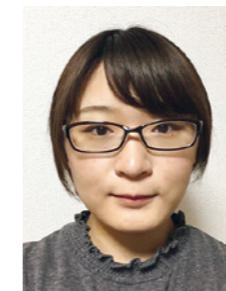
私は少しでも団体の方々役に立つことができたのでしょうか。

昨年1月、私は文化系サークル連合会運営委員長となりました。当時は何が分からないのかも分からず、ただひたすら先輩を頼っていました。そんな中での想定外の出来事に上手く対応できるはずもなく、多くの方々にご迷惑をかけてしまいました。他にも、反省点がとても多い1年でした。それでもなんとか1年間やっていけたのは周りの人たちの支えがあったからです。

私個人だけではなく、文化系サークル連合会としてもそうです。芸術系サークル連合会、体育会、学生生活課、紫峰会業務推進室、この他にもたくさんの組織と関わり、支えてもらっています。私たちが快適に活動できるのは皆さんのおかげです。昨年も無事に1年間活動することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

たくさん皆さんにお世話になっている中で、私は何かを返すことができているのでしょうか。文化系サークル連合会はどこかの誰かの役に立っているのでしょうか。委員長として少しは安定し、このようなことに気付いた頃にはもう代替わりでした。今の私にできることはしっかり引き継ぎをすることと第45期の執行部をサポートすることしかありません。今までお世話になった分、自分に出来ることを精一杯行い、少しでも感謝の気持ちを伝えていきたいです。

1年間大変ありがとうございました。今後も文化系サークル連合会をよろしく願います。



体育会執行委員会

第43代委員長

長谷勇希(体育専門学群4年)

皆様、こんにちは。昨年12月末まで、第43代体育会執行委員会の委員長を務めさせていただいておりました、長谷勇希と申します。今回は自分から、1年間の振り返りを述べさせていただきます。

2019年も、本学体育会は素晴らしい成績を収めました。男子ハンドボール部や女子バレーボール部などはインカレ優勝杯を手にし、また陸上競技部は26年ぶりの箱根駅伝出場を決めました。それ以外にも、72団体ある所属団体の多くが目覚ましい実績をあげ、来るオリンピックイヤーに向けて弾みをつけました。もちろん2020年も高みを目指し、ただその中でスポーツの本質的な楽しさを見失わないよう活動して欲しいと思います。

一方で執行委員会は昨年1年間、「構築」というスローガンを掲げて活動して参りました。体育会構成員と所属団体の円滑な活動のため、様々な会務をこなすことが目的の執行委員会ですが、第43代は概ねその価値を發揮できたのではないかと思います。例えば業務立て直しの施策で言えば、上半期に医学部部門の執行委員会執務室を本部に統合し、年度末には適切な業務遂行の軸となる業務マニュアルを完成させました。執行委員会は、1年という短期間で人が入れ替わる学生組織です。ただその中で、毎年変わらない質の業務を遂行できるような仕組みを構築しました。また新たな事業の例で言えば、昨年はいくつかの他大学体育会本部との交流ができました。都内の大学がコミュニティを作り交流を持っている一方で、筑波は立地的にも孤立し他組織との交流は盛んとは言えません。まだまだ関係は構築途中ですが、この繋がり得られる交流の輪を組織全体に広げていきたいと思っています。

このように、2019年はご支援を賜り誠に充実した活動を行うことができました。2020年も、体育会並びに体育会執行委員会をよろしく願います。



芸術系サークル連合会

第43期運営委員長

島一成(理工学群応用理工学類3年)

芸サ連運営委員長を務めさせてもらったこと、光栄に思います。執行部のメンバーと1年間協力して無事終えることができ、今はほっとしています。

2019年度の芸サ連執行部の目標は「めげない、しょげない、がんばりすぎない」でした。この目標のもと、執行部のメンバーがそれぞれの役割を果たしつつ、自分ひとりで仕事を抱え込まないようにしてきました。協力し合いながら運営をすることができたと思います。また芸サ連の運営委員や責任者の方々にも、芸サ連の一員として責任をもちつつ活動を支えていただきました。私自身、周りの支えのおかげで最後までやり抜くことができたと感じています。

芸サ連の運営に携わってみて、今まで関わることのなかった人々と交流することができました。多くの人と出会えてよかったです。自分の知らなかった課外活動団体も多く、つくば以外の場所でも活躍している団体があり驚きました。構成員の人たちが熱心にそれぞれの活動と向き合っていたので、よりお互いに自分たちの活動を知ることができたら芸サ連がより良いものになるだろうと感じました。まだまだ課題もあるので、来年度のメンバーに引き継ぎたいと思います。

最後に、この1年間私たちの活動を支援してくださり本当にありがとうございました。これからも芸サ連は伝統と革新を続けていきますので、引き続きよろしく願います。



文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～



「コミックマーケット97」ゲーム作品集頒布

Amusement Creators

ゲーム制作サークル Amusement Creators は毎週水曜日に coins ラウンジにて定例ミーティングを開催している他、不定期に実施する「48h GameJam (48 時間で集中的にミニゲーム等の小さな作品を制作するイベント)」などを通して活動しております。ゲーム制作の初心者から経験者まで幅広いメンバーが在籍しており、初心者でも安心してゲーム制作を進めていけるよう経験者が率先して初心者向けの講座などを用意したり、技術力のある経験者が中心となってゲーム制作の根幹を成すゲームエンジンを開発したりするなど、メンバーの技術力を更に向上させることを目標に、今後も活動していきたいと考えております。

(寄稿 / Amusement Creators 代表 鈴木龍・創成2年)

歌留多部

筑波大学歌留多部は、週に3回、文化系サークル会館1階の和室で練習を行っております。練習は決して楽とは言えませんが、部員一同真剣に取り組み、日々成長しております。全国トップクラスの選手も所属しており、非常にレベルが高いサークルです。大会でも優勝、入賞する部員は多く、雰囲気はとても良いです。年に一回行われる大学選手権や、全国職域学生かるた大会で結果を残すことを目標に部員が一丸となって練習に励んでいます。また、全国各地で行われる個人戦の大会に向けても、部員一人一人がそれぞれの目標を持ち日々邁進しております。様々な場所で開かれる個人戦は、他の部員と一緒にいくことで、試合が終わった次の日などに観光することもでき、非常に楽しいです。また、他大学との交流も盛んです。茨城大学さんと合同練習を行ったり、合宿には静岡大学の方々もいらっしやったり、そのほか都内の様々な大学の練習に参加させていただいたりすることも多いです。また、学年関係なく仲が良いことも特徴です。練習後には、部員同士でご飯を食べに行ったり、部員の家に集まったりということも多々あります。練習がない日も歌留多部で集まることも多く、ここまで仲が良いサークルはなかなか無いのではないかなとも思います。今後も、歌留多部の優れている点は維持しながら、改善できる点を直していき、さらに良いサークルにしていきたいと考えています。応援よろしくお願いします。

(寄稿 / 歌留多部部長 野沢公暉・応理2年)



勝浦での合宿の様子

写真部さくら組

私達は毎週木曜日、春日エリアの福利厚生棟で部員同士の交流や撮影会の相談を目的としたミーティングをしています。

ミーティングの中で話題に挙がった場所に土日を利用して撮影に行くというのが主な活動内容です。

不定期で展示会も行っており、毎年7月中旬には新人部員の写真を展示する新人展を開催しています。また、夏季長期休暇中に一泊二日程度で合宿に行きます。去年は千葉の南房総で合宿を行いました。毎年1年生が合宿の計画をしていますが、近すぎず、かといって遠すぎない場所を選ぶのは中々難儀します。雙峰祭では部員が撮った写真の展示に加えてポストカード・写真集・カレンダーを作って販売しています。

本格的な機材を揃えている人からスマホで撮っている人まで様々です。

(寄稿 / 写真部さくら組代表 佐野和夏菜・芸専2年)



日々の活動の様子

池坊華道部

私たち池坊華道部は、週に一度池坊の先生をお迎えして、主に5月の展示や文化祭での展示に向けて日々活動しています。

華道というと堅苦しいイメージを持つ方もいるかもしれませんが、部員は華展などの場でお花を生けるのはもちろん、家のちょっとしたスペースにお花を生けて、生活の中でお花を楽しんでいます。

また、今年度は、朗読会や企業の記念行事の場に、生けたお花を飾り、お客様に見ていただくといった活動や、自己の研鑽のため、全国から学生が集まる京都での一泊二日の研修に数名の部員が参加するなど、日々のお稽古ではできない作品を生ける機会に恵まれ、ますます部員の技術の向上に励むことができました。

来年度も様々な場でお花を展示できたらと思っています。よろしければ観にいらしてください。

(寄稿 / 池坊華道部部長 村上麻亜子・社会2年)

芸術系サークル連合会活動紹介



毎週水曜日に行われる内輪コンサートの様子

ピアノ愛好会

筑波大学ピアノ愛好会の創設は時を遡ること33年、時代はまだ昭和でした。そんなピアノ愛好会は、おかげさまで、会員数94名を数えるまでに成長しました。支援して下さった皆様、誠にありがとうございます。夏休みなどの長期休暇を除く毎週水曜日と金曜日の放課後に主に活動をしています。水曜日は内輪コンサートという活動で、課外活動練習施設で会員がピアノを弾きながら、他の会員がお菓子をたべながら鑑賞する活動です。演奏するだけでなく、ネットで見つけた面白い曲や、近所のスーパーで流れている音楽を話題に談笑します。金曜日はミーティングを行います。また、年間7回程度のコンサートを実施しており、ノバホールといった公共の場で公開することもあります。詳しくはホームページをご覧ください。

(寄稿 / ピアノ愛好会会長 サヴィジトマス・資源2年)



「OTA JAZZ CONCERT 2019」の様子

ジャズ楽団NeopolisBIGBAND

こんにちは。私たちは筑波大学ジャズ楽団NeopolisBIGBANDです。私たちは筑波大学唯一のビッグバンドジャズサークルとして2014年から活動をしています。普段は教室を使った練習、またつくば市内を中心とした演奏活動をさせていただいております。また、大学生ビッグバンドの甲子園ともいわれる「山野ビッグバンドジャズコンテスト」の本選にも出場しました。団員も現在40人を超え、毎日にぎやかで楽しく活動しています。こうして活動できているのも、保護者様の支えがあってのことだと思います。ありがとうございます。

さて、来る3月14日(土)につくば市ノバホールにて、NeopolisBIGBAND 4th Recitalが開かれます。私たちの1年間の活動の集大成となっています。どうかお聞きいただければ幸いです。ぜひお越しください。

(寄稿 / ジャズ楽団NeopolisBIGBANDバンドマスター 団体責任者 藤澤初恵・社会3年)



第45回学園祭公演「Crazy Cafe Ceremony！」より

ミュージカル集団ESSASSA

こんにちは！筑波大学ミュージカル集団 ESSASSA です。私達は「お客様に笑顔と感動をお届けすること」をモットーに活動している、筑波大学唯一のミュージカルサークルです。現在約70名の団員で、キャスト・スタッフ共に、最高の舞台を作るべく日々活動に励んでいます。歌やダンス、演技などの練習だけでなく、舞台や小道具、衣装の制作なども団員で行います。

去年は7月、11月(学園祭)に筑波大学の教室にて、オリジナルミュージカルを上演しました。今年は、3月に卒業公演を予定しております。

この場をお借りして、いつもご支援いただいている皆様、公演に足を運んでくださるお客様に、改めて深く感謝申し上げます。皆様のご来場、心よりお待ちしております。

(寄稿 / ミュージカル集団 ESSASSA 座長 林優里奈・人文2年)



第45回学園祭公演での集合写真

劇団筑波小劇場

保護者の皆様、日頃のご協力誠にありがとうございます。劇団筑波小劇場です。

私たちは筑波大学にある演劇系サークルの1つです。団員は30名ほどで、年に4回～6回ほど公演を行っています。

役者や脚本はもちろんのこと、裏方である照明や音響に小道具や衣装、さらにピラなどの宣伝美術まで全て自分たちで行っています。団員一人ひとりが協力し合いながら一つの作品を作り上げていくことはとても楽しく、また見ていただいているお客様に楽しんでいただくことにとってもやりがいを感じています。

11月に行われた雙峰祭でも、多くの人に舞台を観劇していただくことができました。

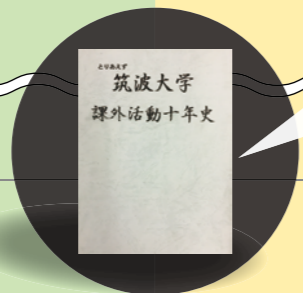
これからも、皆様楽しんでいただけるような公演を打ちたいと思いますので、ぜひ皆様足をお運びください。

(寄稿 / 劇団筑波小劇場座長 常井あゆみ・知識2年)

特集：学生組織のこれまで、これから

筑波大学も開学から40年余りが経過し、大学組織だけでなく学生組織も充実してきました。今回の特集ではそんな学生組織の歴史をご紹介します、これから目指していく指針も示します。

年	全代会	文サ連	芸サ連	体育会	体育会医学部会
1975	1975年 第1回学園祭開催			1975年 体育系サークル館完成	
	1976年 全代会発足	1976年 文化系サークル館開館			1976年 医学専門学群体育会発足
	1977年 第1回スポーツ・デー開催	1977年 第一回課外活動連絡会(三系正式発足)			
1980				1981年 体育会創立5周年記念式典	
				1983年 筑波大学医学体育会加盟、医学支部発足	
1985	1985年 全代会広報誌「Campus」創刊		1984年 第1回つくば芸術祭開催		1988年 東医体主管を務める
2015			2014年 第30回つくば芸術祭		2014年 医学部会へ改称
2020	2019年 第45回学園祭開催			2019年 体育会本部・医学部会統合	



今回、この特集を執筆するにあたり、こちらの「とりあえず 筑波大学 課外活動十年史」を参考資料のひとつとして用いました。ここでは筑波大学が開学した1973年から、1985年までの課外活動を含む大学の歴史が記載されています。

全代会のこれまで、これから

全代会の歴史は学園祭とともにあるといっても、決して言い過ぎではありません。筑波大学の学園祭は、学生の自主性によって成り立っています。その自主性を確立するために、全代会は1976年に発足しました。今でも、全代会は学園祭実行委員会を監督し、学園祭成功のために協力しています。

一方、この40年で全代会に求められる役割の幅は広くなり、いわゆる「筑波大学の生徒会」のような立ち位置として活動を続けています。今後は学生の皆さんの意見をよりくみ取り、大学と学生をつなぐ架け橋としての活動が求められます。50周年に向けて、よりパワーアップしていく全代会に今後ともご注目ください!

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議議長 瀬邊風馬・日2年)

文サ連のこれまで、これから

1974年、筑波大学一期生が入学式後の合宿で、気の合う同士が集まり、サークル結成はそこから始まりました。同年9月、学園祭の準備で、30人以上のサークル代表者が初めて集合しました。その後、1976年、文化系サークル館開館、翌年7月、文化系サークル連合会(文サ連)が発足しました。文サ連は幅広く加盟団体を取り込んでいます。自然系、人文系、芸術系等々色々なサークルが文サ連に所属しています。現在文サ連の加盟団体は30以上で、色々な分野に活躍し、学外の活動も少なくありません。これからも学生組織として、各サークルの活動を支えていきたいと思えます。

(寄稿/第44期文化系サークル連合会広報局長 洪浩麟・芸専2年)

芸サ連のこれまで、これから

全国の大学でも、「芸術系」という括りのサークル連合会があるのはまれです。筑波大学の芸術系サークル連合、通称「芸サ連」は、開学して間もないころ、特に軽音楽系のサークルの練習環境確保のために活動を始めました。現在では軽音楽系のサークルのみならず、様々なジャンルの音楽サークルや、写真や書などの展示を行うサークル、さらには応援部も所属するサークル連合会となり、広く「芸術」の振興を目指します。

芸サ連では2014年まで「つくば芸術祭」というイベントを行っていましたが、2015年以降つくば芸術祭は行われていません。今後の芸サ連は、現在行われているイベントや活動のさらなる充実を図るとともに、つくば芸術祭に代わるような芸術イベントを創造することを課題としています。

(寄稿/第44期芸術系サークル連合会運営委員長 瀬邊風馬・日2年)

体育会のこれまで、これから

サークル連合体を通じた大学側への要求のため、また各種学生連盟へ加盟するために大学を代表する組織の認定団体であることが条件であったことから1977年に体育会仮発足式が行われ、活動が開始されました。後に「筑波大学における学生の課外活動団体の組織等に関する要項」が制定され、体育会と大学が関係づけられ、体育会は正式に動き出しました。現在体育会は部会・同好会計72団体、約3500名の構成員からなる一大組織へと成長しました。近年スポーツ庁が主導で動いているように、スポーツにはまだ見ぬ可能性があります。スポーツを軸とした筑波大学の価値向上のため各部会と執行委員がどのように連携していくか、これが今後取り組むべき課題でしょう。

(寄稿/第43代体育会広報局長 河原井かれん・芸専2年)

体育会医学部会のこれまで、これから

体育会医学部会は、1976年に発足した医学専門学群体育会を起源とします。その後、東医体(東日本医科学学生総合体育大会)の主管を務めるにあたって、1983年に筑波大学体育会へ参入しました。これと同時に、医学専門学群以外の学生にも入部が許可され、現在では多くの部活が医学類以外の学生を受け入れ、活動しています。その後、数度の体制の変更を経て、現在は医学部会という名称で業務にあたっています。

昨今は、本部との連携を密に取りつつも、独自の業務マニュアルの制定など円滑な組織運営を目指す動きが活発化しており、歴史ある医学部活を統括する立場としてさらなる発展が望まれます。

(寄稿/第43代体育会執行委員会医学広報局長 根岸駿太郎・医学2年)

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～



宮城県開上でのレース

医学ヨット部

私達医学ヨット部は、霞ヶ浦をホームハーバーとして夏には江ノ島や宮城県開上ヨットハーバーにおいてセーリング競技の練習に励んでいます。セーリング競技では風だけを推進力を利用してコースを回ります。様々な艇種のヨットがありますが、医学ヨット部では現在オリンピック種目にもなっている全長470cmの470級という船に乗り込んで競技を行っています。風が弱い時は繊細な技術が必要であり、風が強くなればパワーや持久力と言ったフィジカル面での力も試されるセーリングは、広大なフィールドと自然に向き合いながら切磋琢磨する数少ないスポーツです。医学ヨット部では、操船技術や天気予測といったノウハウを上級生から下級生に手取り足取り伝えていながら活動を行っています。

(寄稿/医学ヨット部主務 宮坂直樹・医学3年)



室内投球練習場でのエース

医学準硬式野球部

私たち医学準硬式野球部は、楽しくかつやるところはしっかりやる、メリハリのついた活動をするを目的として活動しています。

部員は医学群の学生のみで、現在は1年生10人、2年生8人、3年生5人、4年生5人、5年生1人、マネージャー12人の計41人で活動しています。昨年の夏、多かった6年生が抜け下級生が中心となったチームで現在はなかなか勝てない状況ですが、1人1人一生懸命練習に取り組んでいます。また、グラウンドが硬式と全学の準硬式と共用な分練習時間は短いですが、だからこそ自主練習時間は最も長く取れると謳いながら、必ず春、夏には結果を出そうと日々努めています。

私たちは北関東準硬式野球連盟に所属し戦っています。今年度秋季リーグ戦では1勝9敗という悔しい結果に終わってしまいました。冬・春にしっかり練習を積んで、関東選手権や春季リーグ戦、東医体では成長した姿を見せられるようにしたいです。

(寄稿/医学準硬式野球部主将 高橋陽・医学2年)



2019年学生選手権ロング種目

オリエンテーリング部

オリエンテーリングとは地図上に描かれたチェックポイントを順番に回りそのタイムを競うスポーツです。ポイント間のルートは競技者自らが地図を読んで判断するので体力と知力の両方が問われます。普通の人は足を踏み入れないような森の中や自然豊かな里山、公園や市街地、大学キャンパス等様々な場所で行われるこの競技は非常にチャレンジングでエキサイティングです。我々はそんなオリエンテーリング競技を通して部内外の人と交流したり、競技力の向上を目指したりしています。また我々の部は年に数回オリエンテーリングの大会を企画・運営しており、その中で最も大規模な「筑波大大会」は39回の伝統を誇ります。部員全員が一丸となってひとつの大会を作り上げるのは非常に大きな達成感があります。

(寄稿/オリエンテーリング部主務 祖父江有祐・地球1年)



試合形式の練習風景

バドミントン同好会

私たちは会員数100人を超える大規模なサークルで、“誰もがバドミントンを楽しめるサークル”を目指し活動しています。初心者から経験者まで幅広いレベルの学生が所属し、各々がレベルアップに向けて仲良く高めあいながら練習しています。練習内容は曜日によって変わり、異なるレベルの人と組んでの練習や、同じレベルに分かれての練習など、多くの会員がバドミントンを楽しめる工夫が多くされています。また、普段の練習に加え部内戦や合宿などのイベントも豊富にあり、医学バドミントン部や東京の大学との交流戦も行っています。学群1年生から博士課程の学生まで、多様な学群・学類の学生が所属しているため、バドミントンを通じて多くの学生と交流でき、年齢の壁を越えて絆を深めることができます。

(寄稿/バドミントン同好会主務 河野あすか・地球3年)

クリスマス・年末年始の芸サ連

芸術系サークル連合会には30の団体が所属しています。それぞれに目標とする大きな公演であったり発表の場があるのですが、小さな内輪でのイベントも行っているようです。学業、サークル、色々なことに動かしむ学生たちも仲間で盛り上がる、励み合う、そんな場が一息いれる場にもなるのではないのでしょうか。そんな彼らのクリスマス・年末年始の様子を聞いてみました。

ジャグリングサークルSheep

私たちジャグリングサークルSheepは年のはじめに1年生発表会を行いました。初心者も多い中、約8か月間練習してきた成果を発揮する大舞台となりました。この行事はこれまでやったことのない行事であり不安も大きかったようですが、1年生たちの日々の努力によりパフォーマンスは大成功でした。

ジャグリングサークルSheepでは3年生は11月の学園祭をもって引退となります。新体制として初めてのステージとなるこの行事は、これからの活気あるサークル活動の滑り出しとして非常に良いものであったと思います。今回は教室での小さな公演でしたが、来年度もっと大きな場所で彼らの精一杯の演技を見るのがとても楽しみです。

(寄稿/ジャグリングサークルSheep部員 栗山宏斗・応理3年)

ピアノ愛好会

秋学期Bモジュールの期末試験を終えた12月27日、2日遅れのクリスマスパーティーを開きました。

メインはピンゴ大会でした。参加した会員がそれぞれプレゼントを持ち寄り、早く上がった順に好きなプレゼントを選んでいきました。

会員それぞれの個性が出ており、とても楽しい時間を過ごせました。そしておしゃべりに興じるあまりピアノを誰も弾かない時間があつたのは内緒です…。

(寄稿/ピアノ愛好会 運営委員・Web担当補佐

浅見理王・社工2年)



1年生発表会のようす①



1年生発表会のようす②



ピンゴを楽しむ会員たち



2019練習納め

女子ソフトボール部

女子ソフトボール部は、週3回という短い練習の中で、練習メニューの作成、外部のチームとの練習試合の計画をはじめとするチームの運営を学生で行っている学生主体のチームです。ほとんどが体育専門学群以外の学生で、大学からソフトボールを始めた部員も多くいます。このような様々な部員がいる中、私たちはインカレ出場をチーム目標として掲げています。さて、私たちは昨年の夏のインカレ予選では惜しくもインカレ出場を逃してしまいましたが、その悔しさをバネにこれまで日々の練習に取り組んできました。現在はオフシーズンで基礎的な練習が多く、対外試合などは少ないですが、今年もインカレ出場を目指し明るく楽しく活動していきたいと思っておりますのでぜひとも応援よろしくお願いたします。

(寄稿/女子ソフトボール部主務 山田理衣・体専2年)

男子バレーボール部

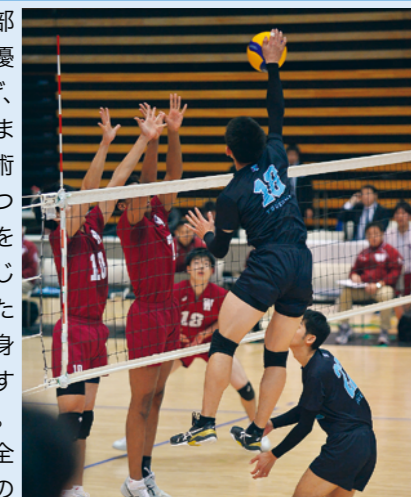
男子バレーボール部は、全日本インカレで優勝することを目標に掲げ、日々練習に精進しています。バレーボールの技術を向上させて試合に勝つことだけでなく、相手を敬うことや礼儀を重んじることなどの社会に出たときに必要なスキルも身につけ、人間的に成長することも目指しています。

また、特徴として、全員が一生涯懸命に自己の課題に向き合っています。レギュラーメンバーはもちろん、あまり試合に出場しない、いわゆる「Bチーム」のメンバーもスタメンの練習の補助に徹する一方で、早朝や練習前後の空いた時間を見つけては少しでも上達しようと練習を行い、チームメイトと共に切磋琢磨しながらバレーボールに取り組んでいます。

2019年度は、全日本インカレ準優勝という悔しい結果に終わってしまいました。

2020年度は、「戦」をチームスローガンとして掲げ、全日本インカレ優勝に向けて、さらなる高みを目指して日々の練習に取り組んでいきたいと思っております。

(寄稿/男子バレーボール部主務 安藤誠弥・体専3年)



全日本インカレ決勝